

くまのしょう 陸軍隈庄飛行場



陸軍大刀洗飛行学校隈庄分教所時代の看板と正門、本部棟建物



隈庄分教所での訓練、整備の様子

※撮影は大刀洗飛行学校隈庄教育隊第2区隊長久我政基氏 所蔵は久我氏・くまもと戦跡ネット高谷和生

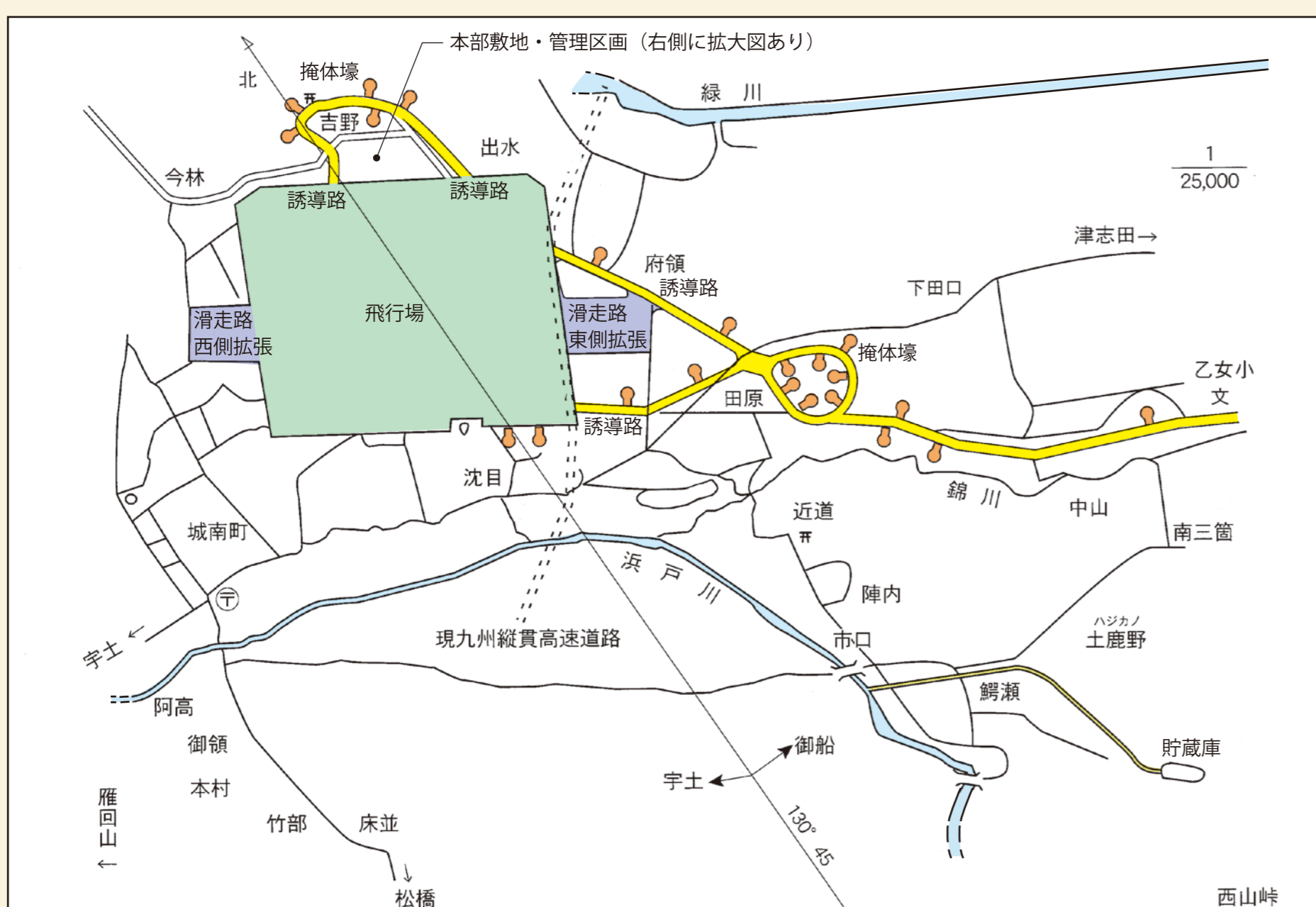
熊本市南区城南町舞原所在。陸軍記録では「隈之庄」とも記載、「舞原飛行場」の別称もある。

昭和14年から舞の原台地に造成を始め、昭和16年10月頃に完成。当初は大刀洗陸軍飛行学校隈庄分教所として発足し、昭和18年6月には大刀洗陸軍飛行学校隈庄教育隊と改称。昭和19年には実戦部隊も配置され、昭和20年4月、第一一〇戦隊（重爆隊・陸軍四式爆撃機「飛龍」を使用）の配置に伴い、重爆機用大型掩体壕30基造営、滑走路を2400mに延長し、一部はコンクリート舗装となる。昭和20年7月、第三十戦闘飛行集団の配当飛行場となり、特攻機の中継基地となる。敗戦時は第一六二飛行場大隊、第一一〇戦隊の駐留があった。

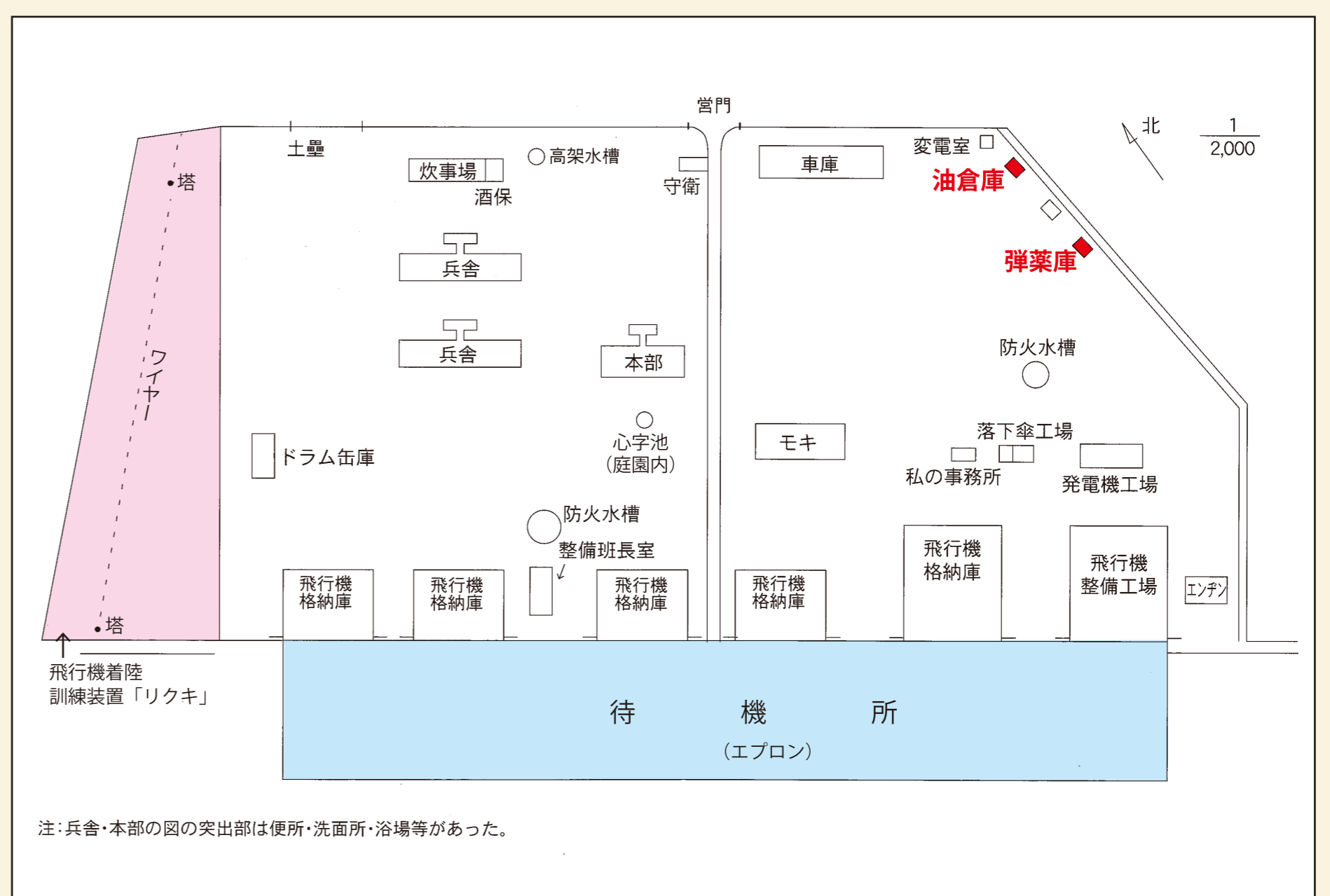
正門（城南病院正門）は消滅し、城南病院内本部棟裏に「心字池」（庭園内）が唯一残される。周辺には格納庫基礎4、待機所（エプロン）、弾薬庫1、油倉庫1他が残される。平成9年飛行場・町関係者により火の君文化センター裏に、平和の慰霊碑「碧空に祈る」が建立された。

教育隊当時の区隊長の久我政基氏（鹿児島県出身・南区城南町在住）が、勤務地での日常を切り取った膨大な撮影写真を所蔵。久我氏、熊本市立塚原歴史資料館、くまもと戦跡ネット高谷が各々で所蔵する。

また、本基地で本部気象班員として世界的俳優である三船敏郎が敗戦をむかえている。6月24日の部隊祭での口ひげに眼帯をつけた三船の貴重な演劇写真が残されている。



隈庄飛行場周辺部の配置見取り図



隈庄飛行場の管理区画

※立山茂著『隈庄飛行場工事の記録』を一部改変